

## 加賀市の学校の これまで

加賀市は2023年に「加賀市学校教育ビジョン」を策定しました。

### 合言葉

#### BE THE PLAYER

自分で考え 動く 生み出す そして社会を変える

### プロジェクト

- 1 学びを変える
- 2 誰一人取り残さない
- 3 未来は自分で創る
- 4 地域と一緒に

#### 何が変わった？

いわゆる一斉授業スタイルから、「個々のスピードに合わせて、自分のペースで自分から学ぶ。そして沢山のひとと対話して、助け合って共に学び合う」というスタイルへの転換を図りました。

具体的な内容は百聞は一見に如かずですので、YouTubeで「加賀 教育」などと検索して過去のニュース番組などをご覧になるのが分かりやすいかと思います。

#### なぜ変えた？

子どもは一人ひとり多様であり、一斉型の授業で伝えられることには限界があるからです。身長が120cmと140cmの子どもしかいないクラスで、「平均をとって130cmのTシャツを作ったのでみんな着てください」と言っているようなもので、みんなにほぼどに合わせた単一のものを提供すると、誰の役にも立ちません。

また、「ある集団の中で、時間内に、決められた正解に到達する力」よりも「自ら課題を発見する力」「自他をフル活用して課題を解決していく力」を伸ばす授業に変えていく必要がありました。

#### どうだった？

学びが転換できていることは、以下のとおり子どもたちの感想にも表れています。これを単なる感想で終わらず、加賀市の学校の「これから」につなげていきます。



その他これまでの取り組みのご報告はこちらを参照ください。

### 子どもたちの感想

Q 授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいるか

A いつもorだいたいそう **72.9%** 小学生76.9% 中学生67.2%

Q 授業では必要な時に必要な仲間と協力しながら学んでいるか

A いつもorだいたいそう **82.6%** 小学生81.6% 中学生83.7%

## 加賀市の学校の これから

大前提として、学校の「これから」は、**地域の皆様と一緒考えていくもの**ですし、今年度は「加賀市学校教育ビジョン」の各プロジェクトを最後までやりきることが子どもたちのために最も重要です。その上で、今、学校を一周して、注力すべきと感じるものは以下3点です。

### 1 もっと“BE THE PLAYER”

「子どもに委ねる学び」はもっともっとと良くてできると感じます。たくさん新しいことにチャレンジする中で、課題も見えていますが、課題があるからといって「これまでどおり」に戻ってしまえば、子どもの今も未来も幸せにできません。**子どもや地域の特性に応じた「自分で考え、動く、生み出せる」授業**を引き続き追求します。

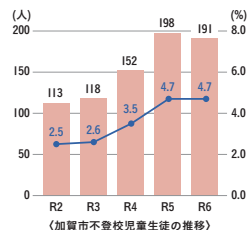
### 2 地域の未来を創る

子どもたちが地域の良さを発見し、将来どうしていきたいか、自分は将来どうありたいか考えていく、そんな機会をもっと充実させていきたいです。これは正解の無い難題ですし、「それっぽい」答えでは意味がありません。教科横断的な視点も必ず必要になります。**子どもの生涯にわたる学びにつながる内容**を考えていきます。

### 3 本気で 「誰一人取り残さない」

全国的に急激に増加する不登校・不登校傾向の子ども、特別な支援を必要とする子ども、社会・経済的なバックグラウンドに不利がある子ども。**子どもが抱える様々な困難に正面から向き合って、子どもが「学び」から取り残されることが無いよう、支援策を一層充実**させていきます。特に不登校は、加賀市でも増加傾向にありましたが、右グラフのとおり、昨年度歯止めがかかり、今年度は「勝負の年」と認識し、

- 1 学校内の相談先・居場所
- 2 学校内外をつなぐ相談先(教育総合支援センター、チャット相談「ブリッジ」)
- 3 学校外の居場所(教育総合支援センター内「Being」、児童センター)の3つをいずれも充実させていきます。



加賀市「不登校支援プラン」の詳細はこちらを参照ください。

## “BE THE PLAYER”×「地域」

皆様こんにちは、教育長の松本 向貴です。4月の着任以降、学校関係者をはじめ、市議会の皆様、地元企業の方々など様々な方とお会いしましたが、最もよく聞かれたのは「加賀市の学校、どう感じましたか?」ということですね。様々な感じ方とはありますが、一つは「これまでの方向性は全く間違っていない」、もう一つは「**学校は常に、地域とともにある**」ということです。

初めて加賀市に住んで驚かされたのは、各地域が持つ多様で奥深い歴史の数々です。海あり山あり、温泉あり田畑あり港あり、焼物あり漆器あり、十萬石の歴史あり、藩政前からの歴史あり……。国はすぐ「市町村の判断において」と、自治体の中が均一であるかのような言い方をしていますが、地域の多様性は加賀市の大きな魅力の一つであると思っています。

そしてその地域の多様性が、学校の風土の多様にも反映されていると思います。車で2分の距離の2学校でも、雰囲気は全く違うと感じました。しかし、地域を問わず共通しているのは、**各学校の努力と地域の方々の御協力が相まって今の学校がある**、ということですね。この強みを活かす仕掛けを今後考えていきたいと思っています。私が知っている地域の魅力はまだ1%にも満たないでしょうから、引き続きまちの皆様に教わりたいです！

次によく聞かれたのは「教育長って何?」(主に子どもから聞かれました)。子どもへの答えは別途考え中ですが、「加賀市学校教育ビジョン」(左頁参照)の実施期間は今年度まで。今年度ビジョンに基づく取り組みを更に発展させつつ、並行してその先のビジョン・プランを構想するのが、私の最も大きな仕事の一つです。来年度以降も「**そろえる教育**」から「**伸ばす教育**」へ、という方向性は変えませんが、「伸ばす」中の一つの大事な視点として、**地域に根差す、地域の魅力を知る**・そこから自分の生き方を考える機会につながる

教育長 松本 向貴 さん



ということを意識していきたいと思っています。



## 全市立学校を訪問しました

子どもや地域の特性に応じた支援を考えるため、まずは全校訪問して、授業を拝見しつつ校長先生と意見交換させていただきました。三谷小学校では体育に飛び入り参加することに。まさかいきなり800m走だとは思ってなかったので疲労困憊しましたが…まだ6年生とは競い合えました(笑)。

加賀市の小学校は全校児童20名から455名まで全16校、中学校は全校生徒150名から372名まで全5校。さらに9年制の一貫校(義務教育学校)が今年度開校しました。

# 教育の未来は加賀にあり

教育委員会  
連載